

IBTA e-News 国際脳腫瘍ネットワーク 月刊ニュースレター

2023年3月号

目次 (項目をクリックすると記事本文にジャンプします)

【トップニュース】

- ◆ 臨脳腫瘍に関する英国全政党議員連盟が政府の緊急対策を求める調査報告書を発表
- ◆ 医薬品開発および規制において患者および一般市民がより深く参加し関与する機会

【治療関連ニュース】

- ◆ ダブラフェニブ（タフィンラー）とトラメチニブ（メキニスト）の併用療法が小児の BRAF V600E 低悪性度神経膠腫で米国食品医薬品局の承認を取得
- ◆ 高悪性度神経膠腫に対するカルムスチンウェハーの埋め込みによる生存率向上に関連する因子を特定した研究結果
- ◆ 神経膠腫関連難治性てんかんに対して、レベチラセタム、バルプロ酸にクロバザムを追加することで、他の3剤併用療法と同等の効果が得られる可能性を示す研究結果

【研究ニュース】

- ◆ 髄芽腫を標的とした新しいナノ粒子治療法に関する研究
- ◆ 髄芽腫が脳の正常な発達過程を“ハイジャック”して全身に広がる仕組みを解明
- ◆ 国際宇宙ステーションでの微小重力実験に向けびまん性正中神経膠腫細胞が宇宙へ打ち上げられることが決定
- ◆ 脂肪代謝に関わるノンコーディングRNAが将来の髄芽腫治療の標的になる可能性があるとの研究結果
- ◆ 第1回米国臨床腫瘍学会・神経腫瘍学会臨床試験会議の報告書を公開、課題と今後の戦略が明らかに
- ◆ 膠芽腫を免疫システムから覆い隠すために2つの変異が組み合わされていることが明らかに
- ◆ 小児脳腫瘍薬物送達コンソーシアムが前臨床研究を臨床試験へ加速させるためのロードマップを公開

【企業ニュース】

- ◆ ボラシデニブは再発または残存するIDH変異グレード2の神経膠腫に対して抗腫瘍活性を示し、病勢進行を遅らせることが示された第3相臨床試験：セルヴィエ社発表
- ◆ 再発性膠芽腫に対するSONALA-001音響力学療法の第2相試験で最初の cohorts が完全登録：SONALAsense社発表
- ◆ 米国食品医薬品局がガリウムマルトレートが膠芽腫の治療薬として希少疾病用医薬品に指定：IQ-AI社発表
- ◆ NOX-A12と放射線を併用する膠芽腫を対象としたGLORIA臨床試験の拡大投与群で予想される生存期間を上回る：TME Pharma社発表
- ◆ 米国食品医薬品局がテンフェロンを膠芽腫の治療薬として希少疾病用医薬品に指定：Genenta Science社発表

- ◆ 腫瘍治療電場研究に関する第5回AACR-ノボキユア助成金を開始：ノボキユア社発表
- ◆ 再発膠芽腫に対するベルビシンの臨床試験にスイスで最初の患者が登録された：CNS Pharmaceuticals社発表
- ◆ 米国食品医薬品局がFORE8394を原発性脳腫瘍および中枢神経系悪性腫瘍の治療薬として希少疾病用医薬品に指定：Fore Biotherapeutics社発表

【国際的脳腫瘍コミュニティのニュース】

- ◆ カリフォルニア大学サンフランシスコ校ライブアート展



【イベント／学会ニュース(抜粋)】

【トップニュース】

脳腫瘍に関する英国全政党議員連盟が政府の緊急対策を求める調査報告書を発表

英国脳腫瘍議員連盟（APPGBT）は、調査報告書「治療への道-障壁を打ち破る」を発表し、脳腫瘍患者を支援するために英国政府に緊急行動を求め、現在の助成制度が「目的に合わない」と強調した。報告書によると、脳腫瘍研究に対する政府の主要な資金援助が発表されてから5年間にわたり英国脳腫瘍議員連盟の会合が開催され、「脳腫瘍がもたらす複雑なパズルを解くのに最適な人たち（すなわち研究者）の手に助成金が行き渡らないことが明らかになった」と述べている。2005年に設立された英国脳腫瘍議員連盟は、各政党の上下両院議員で構成され、脳腫瘍コミュニティが直面する問題に対する認識を高め、研究、診断、情報、サポート、治療、ケアの成果を改善することを目的としている。本報告書は、過去12ヶ月間の口頭および書面による証拠収集に基づき、「脳腫瘍患者は、歴代政府のリーダーシップの欠如によって失望させられてきた」とし、「政府は、脳腫瘍研究を重要な優先事項と認識し、2024年までに探索、橋渡し、臨床各段階の研究に適切な資金を供給する戦略計画を策定し、この取り組みを開始するために現行および新規資金1億1千万ポンドを確保する必要がある」と指摘している。報告書の全文は[こちら](#)。

「Pathway to a Cure」報告書の発表後、2023年3月9日に英国下院の本会議場で討論会が開催された。この討論会には、各政党の議員が出席し、脳腫瘍研究のための資金や政府による一貫した戦略の不足などについて議論された。下院では、政府はできるだけ早く「脳腫瘍チャンピオン」を任命し、保健省（DHSC）と科学・イノベーション・技術省（SIT）の間で、報告書で提示された戦略の資金調達と実施を調整するべきだという意見で党派を超えて一致した。討論会の模様は[こちら](#)。また、議事録は[こちら](#)。

[目次に戻る](#)

医薬品開発および規制において患者および一般市民がより深く参加し関与する機会

患者と社会は、科学的発見、新しい技術、より良い薬剤の恩恵を受けるだけでなく、研究の共同設計や規制プロセスへのインプットを通じて、これらの発見に貢献することもでき、また、そうあるべきである。患者や、より広範で多様なコミュニティは、どのような医療問題を対象とすべきか、新しい治療法の有効性を検証するにはどのようなエビデンスが必要か、そして私たちの健康や治療の成果において「価値」が本当に意味するものは何かについて、独自の洞察を提供できる。Nature Reviews Drug Discoveryに掲載された論文では、規制当局による主要な患者・公衆の参加・関与（PPIE）の取り組みを紹介し、改善のための戦略的領域を示唆し、この取り組みに関する患者の視点を紹介している。[続きを読む](#)（論文は4月10日までフリーアクセス可能）。

[目次に戻る](#)

【治療関連ニュース】

ダブラフェニブ（タフィンラー）と トラメチニブ（メキニスト）の併用療法が小児の BRAF V600E 低悪性度神経膠腫で米国食品医薬品局の承認を取得

米国食品医薬品局（FDA）は、BRAF V600E変異を有する1歳以上の低悪性度神経膠腫の小児患者の治療薬として、ダブラフェニブ（タフィンラー）と トラメチニブ（メキニスト）を承認したと、米国食品医薬品局と本剤の製造元のノバルティス社から発表があった。米国Children's National HospitalのCenter For Neurosciences and Behavioral Medicineの上級副センター長であるRoger Packer医師は、「今回の米国食品医薬品局の承認は、BRAF V600E低悪性度神経膠腫を患う小児患者に新たな希望をもたらすかもしれません。これは、医療従事者がこれらの小児患者を治療する方法を変える可能性があり、化学療法と比較して大きな進歩をもたらします」と述べている。この2つの薬剤は、変異したBRAF遺伝子によって引き起こされる細胞増殖シグナルを遮断するために共同して機能する。また、錠剤を飲み込むことができない患者に適した両薬剤の新しい経口剤も承認された。[続きを読む](#)

[目次に戻る](#)

高悪性度神経膠腫に対するカルムスチンウエハーの埋め込みによる生存率向上に関連する因子を特定した研究結果

World Neurosurgery誌に掲載された研究結果は、手術後に腫瘍摘出腔にカルムスチンウエハーを留置した高悪性度神経膠腫患者の生存に影響を与える要因を調査したものである。フランスの全国データベースから2008年1月から2019年12月までの患者記録を分析することで、研究者らは、カルムスチンウエハーを留置された1,608人の患者の平均5年全生存率は10.7%であり、若い患者、女性、化学放射線療法を完了した患者の生存率が最も高かったことを確認した。また、腫瘍再発後のさらなる手術は、生存期間の延長と関連していた。[続きを読む](#)

[目次に戻る](#)

神経膠腫関連難治性てんかんに対して、レベチラセタム、バルプロ酸にクロバザムを追加することで、他の3剤併用療法と同等の効果が得られる可能性を示す研究結果

[Neurology](#)誌に掲載された研究により、神経膠腫関連難治性てんかん（抗てんかん薬にうまく反応しない、または全く反応しないてんかん）患者において、抗てんかん薬レベチラセタムおよびバルプロ酸にクロバザムを追加することで、他の3種抗てんかん治療法と同等の効果が得られる可能性が示唆された。神経膠腫患者1,435人を対象としたこの観察研究では、90人が発作を抑えるために3種類の抗てんかん薬を必要とし、そのうち48%はレベチラセタムおよびバルプロ酸にクロバザムを加えた処方であり、残りは他の3剤併用療法を受けた。解析の結果、レベチラセタム、バルプロ酸、クロバザム処方、神経膠腫において他の抗けいれん薬3剤併用療法と同等の効果があるようで、他の併用療法よりも忍容性が高い可能性が示された。[続きを読む](#)

[目次に戻る](#)

【研究ニュース】

髄芽腫を標的とした新しいナノ粒子治療法に関する研究

[Nature Materials](#)誌に掲載された研究によると、ナノ粒子を用いて抗がん剤を髄芽腫に直接投与する薬物送達法が開発された。研究チームは、抗がん剤ビスモデギブを含むナノ粒子を設計し、P-セレクトリンという血管の内側にある分子に引き寄せられて結合するようにした。そのことにより、このナノ粒子は脳内に直接吸収され、ビスモデギブを腫瘍に届ける。[ビスモデギブ](#)は、ソニックヘッジホッグ髄芽腫（SHH-MB）サブグループで異常に活性化しているシグナル伝達経路（ヘッジホッグと呼ばれる）を標的としている。SHH-MB腫瘍を持つマウスの実験では、放射線治療と同時にナノ粒子治療を受けた動物は、未治療の動物と比較して生存期間が長く、ビスモデギブの静脈内投与で知られる副作用である骨量減少が著しく減少した。[続きを読む](#)

[目次に戻る](#)

髄芽腫が脳の正常な発達過程を“ハイジャック”して全身に広がる仕組みを解明

髄芽腫が体内の他の部位に広がる（転移する）ために、重要な遺伝的・分子のプロセスがどのように操作されているかを明らかにした研究結果が、[Nature Cell Biology](#)誌に掲載された。研究チームは、細胞や動物を使った一連の実験を通じて、SMARCD3という遺伝子のレベルが、転移のない腫瘍に比べて転移腫瘍で有意に高いことを発見した。さらに、この過剰なSMARCD3活性が、健康な脳細胞が脳の発達初期に使用するシグナル伝達経路（SMARCD3-DAB1-Reelin）の一つを効果的に“ハイジャック”していることを突き止めた。マウスを使った実験では、白血病の治療に使われるダサチニブという薬剤が、SMARCD3レベルが高い転移性腫瘍を殺すことを発見し、髄芽腫の治療法となる可能性を示唆した。[続きを読む](#)

[目次に戻る](#)

国際宇宙ステーションでの微小重力実験に向けびまん性正中神経膠腫細胞が宇宙へ打ち上げられることが決定

びまん性正中神経膠腫（旧名：びまん性内在性橋膠腫：DIPG）の成長過程をより深く理解するために、この腫瘍の細胞が国際宇宙ステーション内の宇宙空間で培養されることが英国に拠点を置くインスティテュート・オブ・キャンサー・リサーチによって発表された。研究者らは、英国の宇宙分野のパートナーとの共同研究により、国際宇宙ステーションの微小重力環境下でがん細胞を培養することにより、地上で作成するよりもはるかに大きい三次元構造を作成でき、これらの腫瘍の複雑な多細胞構造を解明する手がかりとなる可能性を期待している。[続きを読む](#)

[目次に戻る](#)

脂肪代謝に関わるノンコーディングRNAが将来の髄芽腫治療の標的になる可能性があるとの研究結果

かつては「ジャンク」と考えられていた「ノンコーディング」RNAという遺伝物質の一種が、ソニックヘッジホッグ（SHH）髄芽腫のサブタイプの信頼できる指標となり、薬剤のターゲットとなる可能性があることが、[Acta Neuropathologica Communications](#)誌に発表された研究成果により明らかになった。研究者らは、175の髄芽腫の遺伝子配列データのデータベースを分析し、circ_63706という環状ノンコーディングRNA分子が、他のサブグループと比較して、SHHサブグループで常に高いレベルにあることを突き止めた。一連の細胞実験と動物実験を通じて、circ_63706は、これらの腫瘍の成長と体内の脂肪の処理の両方に重要な役割を果たしていることが明らかになった。circ_63706がない場合、脂肪の分解が進み、腫瘍は小さくなり、これらの腫瘍を持つマウスは、通常のSHHサブグループ髄芽腫を持つマウスよりも有意に長生きしたことから、これらのプロセスが将来の治療法のターゲットとなる可能性が指摘されている。[続きを読む](#)

[目次に戻る](#)

第1回米国臨床腫瘍学会・神経腫瘍学会臨床試験会議の報告書を公開、課題と今後の戦略が明らかに

第1回米国臨床腫瘍学会（ASCO）および神経腫瘍学会（SNO）[臨床試験会議](#)の報告書がThe Lancet Oncology誌に掲載された。この会議は、科学的発見を効果的な脳腫瘍治療法に結び付けるためのロードマップを描くために、障壁を特定し、関係者間の議論を促進するために毎年開催されるものである。本報告書では、神経腫瘍学領域における医薬品開発および新規試験デザインについて概説し、創薬プロセスを改善し、臨床試験の有効性と再現性を最大化するための戦略が提案されている。[続きを読む](#)（購読・支払が必要）。

[目次に戻る](#)

膠芽腫を免疫システムから覆い隠すために2つの変異が組み合わされていることが明らかに

[Cell Reports](#)誌に掲載された研究により、2つの特定のがん細胞の変異が、膠芽腫を免疫システムから覆い隠すのに役立つことが明らかになった。このことにより、どのタイプの腫瘍が免疫療法に最もよく反応するかを予測する方法が

得られ、膠芽腫が免疫システムを回避する方法についての理解が進む可能性がある。17人の患者の腫瘍サンプルの遺伝子解析と顕微鏡による細胞解析を通じて、EGFRとCDK4という2つの既知のがん遺伝子をそれぞれ6回以上繰り返している細胞を多く含む腫瘍が、免疫システムから隠れやすいことが明らかとなった。これらの腫瘍では、マクロファージと呼ばれる白血球の一種が腫瘍塊に侵入する数が多く、他の抗腫瘍免疫を発揮する免疫システムから腫瘍を巧妙に覆い隠していた。本研究の著者らは、このような細胞レベルの分析技術を用いることで、膠芽腫内の多様な細胞をよりよく理解し、これらの腫瘍をその遺伝子構成に基づいて異なるサブタイプに分類することができるようにすると説明している。[続きを読む](#)

[目次に戻る](#)

小児脳腫瘍薬物送達コンソーシアムが前臨床研究を臨床試験へ加速させるためのロードマップを公開

英国小児がん患者会（Children with Cancer UK）が資金提供するChildren's Brain Tumour Drug Delivery Consortium（CBTDDC；小児脳腫瘍薬物送達コンソーシアム）は、薬物送達技術に焦点を当てた前臨床研究から臨床試験への移行に関する「ロードマップ」文書を作成した。このロードマップは、神経腫瘍学研究および臨床コミュニティにおける多様な関係者との協議に基づいて作成され、前臨床研究の成果を効果的に臨床試験の準備段階に移行させようとする際に研究者が直面する情報格差やこれらの情報を1つの簡潔な文書に統合する必要性を認識して作成された。[続きを読む](#)（ロードマップ全文）。

[目次に戻る](#)

【企業ニュース】

ボラシデニブは再発または残存するIDH変異グレード2の神経膠腫に対して抗腫瘍活性を示し、病勢進行を遅らせることが示された第3相臨床試験：セルヴィエ社発表

IDH1、2遺伝子変異の作用を阻害する薬剤であるボラシデニブ（AG-881）の第3相INDIGO試験（[NCT04164901](#)）のデータから、再発または残存するIDH変異グレード2の神経膠腫（乏突起膠腫および星細胞腫）患者において抗腫瘍活性と、無増悪生存期間（腫瘍再発または疾患悪化までの期間）がプラセボと比較して臨床的に意味のある改善を示したことが報告された。合計で340人の患者登録が計画され、病勢進行または毒性が許容できなくなるまで、ボラシデニブの1日1回経口投与またはプラセボ投与のいずれかに1対1でランダムに割り付けられた。プラセボ投与群には、腫瘍が進行した場合にボラシデニブ投与群に移行するオプションが付与された。これらの結果は、本試験の主要評価項目を満たすものであり、さらなる結果は、今後開催される医学会議で発表される予定であると、本薬の製造元であるセルヴィエ社は発表した。[続きを読む](#)。会社のプレスリリースは[こちら](#)。

[目次に戻る](#)

再発性膠芽腫に対するSONALA-001音響力学療法の第2相試験で最初の cohorts が完全登録：SONALAsense社発表

SONALAsense社は、再発性膠芽腫に対するSONALA-001音響力学療法の[第2相臨床試験](#)（SDT-202）の最初の cohorts が完全に登録されたと発表した。この3部構成の試験では、SONALA-001という薬剤の注入後、Exablate 4000 Type-2デバイスと呼ばれる磁気共鳴ガイド下集束超音波装置を用いた処置を行い、薬剤を活性化させて腫瘍組織の破壊を誘発する。SDT-202は、再発性膠芽腫を対象とした音響力学療法の非盲検・用量漸増試験である。[続きを読む](#)（同社プレスリリース）

[目次に戻る](#)

米国食品医薬品局がガリウムマルトレートが膠芽腫の治療薬として希少疾病用医薬品に指定：IQ-AI社発表

IQ-AI社の発表によると、米国食品医薬品局（FDA）は、ガリウムマルトレート（GaM）を膠芽腫の治療薬として希少疾病用医薬品に指定した。ガリウムマルトレートは、IQ-AI社が再発・治療抵抗性膠芽腫を対象とした第1相臨床試験（[NCT04319276](#)）を実施している経口剤である。[続きを読む](#)（同社プレスリリース）。

[目次に戻る](#)

NOX-A12と放射線を併用する膠芽腫を対象としたGLORIA臨床試験の拡大投与群で予想される生存期間を上回る：TME Pharma社発表

化学療法に対する抵抗性の指標である非メチル化MGMTを有し、腫瘍が完全に切除できなかった膠芽腫患者を対象に、NOX-A12（CXCL12阻害剤）を放射線療法と併用するGLORIA（[NCT04121455](#)）第1/2相臨床試験の拡大投与群の生存データについて最新情報をTME Pharma社が発表した。NOX-A12に放射線治療とベバシズマブを併用した拡大投与群では、12カ月後も83%の患者が生存しており、この患者群に期待される生存率を上回っていると発表した。[続きを読む](#)（同社プレスリリース）。

[目次に戻る](#)

米国食品医薬品局がテンフェロンを膠芽腫の治療薬として希少疾病用医薬品に指定：Genenta Science社発表

Genenta Science社は、同社のテンフェロンが、膠芽腫の治療薬として米国食品医薬品局（FDA）から希少疾病用医薬品指定を受けたと発表した。希少疾病用医薬品指定のメリットは、連邦政府の補助金の受給資格、適格な臨床試験に対する税額控除、米国食品医薬品局承認後の7年間の販売独占期間などである。テンフェロンは、腫瘍内の免疫細胞がインターフェロンα（IFN-α）タンパク質を放出するよう誘導し、それによって免疫系の他の部分を活性化させる細胞治療である。[続きを読む](#)（同社プレスリリース）

[目次に戻る](#)

腫瘍治療電場研究に関する第5回AACR-ノボキア助成金を開始：ノボキア社発表

ノボキア社は、腫瘍治療電場研究に関する第5回AACR-ノボキア助成金を開始することを発表した。本プログラムは、ノボキア社と米国がん学会（AACR）が共同で、腫瘍治療電場（TTFields）に関する革新的な研究を促進・支援し、腫瘍治療電場研究分野への研究者の参入を促進することを目的としている。このプログラムには、今後3年間で合計150万米ドル以上の研究助成金とキャリア開発賞金が含まれています。[続きを読む](#)（同社プレスリリース）。

[目次に戻る](#)

再発膠芽腫に対するベルビシンの臨床試験にスイスで最初の患者が登録された：CNS Pharmaceuticals社発表

CNS Pharmaceuticals社は、ベルビシンを成人の再発膠芽腫の治療薬として評価する現在進行中の極めて重要な国際共同第2相臨床試験（[NCT04762069](#)）に、スイスで最初の患者が登録されたことを発表した。ベルビシンは、アントラサイクリン系薬剤として血液脳関門を通過する初の新規化学療法剤であると同社は発表している。CNS Pharmaceuticals社は、米国、イタリア、フランス、スペイン、スイスで選択した59カ所のうち、40カ所の臨床試験施設を開設している。[続きを読む](#)（会社プレスリリース）

[目次に戻る](#)

米国食品医薬品局がFORE8394を原発性脳腫瘍および中枢神経系悪性腫瘍の治療薬として希少疾病用医薬品に指定：Fore Biotherapeutics社発表

Fore Biotherapeutics社 のプレスリリースによると、米国食品医薬品局はFORE8394を原発性脳腫瘍および中枢神経系悪性腫瘍の治療薬として希少疾病用医薬品に指定した。FORE8394（旧PLX-8394）は、一部の腫瘍の成長を強力に促進する変異BRAF遺伝子の作用を阻害する経口抗がん剤である。[続きを読む](#)(同社プレスリリース)

[目次に戻る](#)

【国際的脳腫瘍コミュニティのニュース】

カリフォルニア大学サンフランシスコ校ライブアート展

Sheri Sobrato Brisson脳腫瘍サバイバーシップ・プログラムは、カリフォルニア大学サンフランシスコ校（UCSF）のアート・フォー・リカバリープログラムと提携し、脳腫瘍と闘う才能あるアーティストたちのオリジナル作品を紹介することになった。サンフランシスコで初開催されるライブイベント「[For the Love of Art](#)」では、脳腫瘍がもたらす影響を捉えつつ、生命の美しさや自己表現の治療力を称えるオリジナル作品が展示される。2023年4月から7月まで、カリフォルニア大学サンフランシスコ校パルナツソス・キャンパスにあるFaculty Alumni Houseで公開されるこの展示には、絵画、写真、彫刻など、さまざまな媒体の芸術作品が含まれている。これらの芸術作品はインスピレーションの源であり、人間の精神の回復力と創造性を浮き彫りにするものである。詳細については、<mailto:Susan.Chang@ucsf.edu> までお問い合わせください。

[目次に戻る](#)

【イベント／学会ニュース(抜粋)】

※患者向けイベントは省略 学会ニュースのみ抜粋

COVID-19の大流行後、私たちは徐々に対面式のイベントに戻りつつあります。しかし、登録や旅行計画を立てる前に、予定されているイベントの状況や対面式、ハイブリッド式、バーチャル式のいずれであるかについて、カンファレンス主催者に確認するようにしてください。

[目次に戻る](#)

2023年4月

[サブサハラ・アフリカ神経腫瘍学会（SNOSSA）第一木曜教育ウェビナー：脳神経外科神経救急](#) 2023年4月6日 オンライン-詳細は info@snoossa.orgにコンタクトしてください

2023年5月

[国際小児がん学会2023年大会～ご予定を！](#) 2023年5月8日-12日 スペイン バレンシア

[クイーンスクエア脳神経外科レビューコース（ハイブリッドコース）](#) 2023年5月9日-13日 英国 ロンドン

[デューク大学脳脊髄転移コロキウム2023](#) 2023年5月19日-20日 米国 ノースカロライナ州 ダーラム およびオンライン

2023年6月

[米国臨床腫瘍学会\(ASCO\)](#) 2023年6月2日-6日 米国 シカゴ

[2023年脳腫瘍学会小児脳腫瘍研究会議](#) 2023年6月22日-24日 米国 ワシントンDC

2023年7月

[英国神経腫瘍学会年会](#) 2023年7月5日-7日 英国 マンチェスター

[サブサハラ・アフリカ神経腫瘍学会（SNOSSA）2023年大会](#) 2023年7月20日-22日 ケニア ナイロビ

2023年8月

[2023米国神経腫瘍学会/米国臨床腫瘍学会中枢神経系腫瘍会議](#) 2023年8月10日-12日 米国 カリフォルニア州 サンフランシスコ

2023年9月

[第18回欧州神経腫瘍学会大会\(EANO2023\)](#) 2023年9月21日-24日 オランダ ロッテルダム

2023年10月

[第15回CONGO科学会議](#) 2023年10月8日-10日 オーストラリア シドニー

[第26回脳神経外科世界会議 \(WCN2023\)](#) 2023年10月15日-19日 カナダ モントリオール

[第19回アジア脳腫瘍学会年会\(ASNO2023\)](#) 2023年10月27日-29日 インドネシア バリ

2023年11月

[欧州がんサミット2023](#) 2023年11月15日-16日 ベルギー ブリュッセル

[第28回神経腫瘍学会大会、教育イベント \(SNO2023\)](#) 2023年11月15日-19日 カナダ バンクーバー

脳腫瘍患者やその擁護団体によるイベントまたは学術会議（バーチャルか対面かは問わず）を企画している方、ご存知の方、または上記イベントの変更にお気づきの方は、kathy@theibta.orgまで。[イベントページ](#)に掲載可能。

IBTAウェブサイトの[会議ページ](#)で、今後の学術会議やイベントの最新情報を確認のこと。

IBTA（国際脳腫瘍ネットワーク）について

私たちについて

国際脳腫瘍ネットワーク（The International Brain Tumour Alliance：IBTA）は2005年に設立されました。各国の脳腫瘍患者や介護者を代表する支援、提唱、情報グループのネットワークであり、脳腫瘍の分野で活躍する研究者、科学者、臨床医、医療関係者も参加しています。詳細は www.theibta.org をご覧ください。

ご意見をお聞かせください

IBTAコミュニティで共有したいニュースがあれば、ぜひお聞かせください。宛先：chair@theibta.org

月刊ニュースレターやホームページを通じて、ご購入者の皆様にできるだけ多くの情報を中継していく予定です。

メールニュース記事の選択は、編集者の裁量で行われます。

Copyright © 2020 The International Brain Tumour Alliance, All rights reserved. 無断複写・転載を禁じる。

（免責事項）国際脳腫瘍ネットワーク（IBTA）は、e-News（あるいはIBTA向け、またはIBTAに代わって作成されたニュース内でリンクを提供しているすべての資料、報告書、文書、データ等）に掲載される情報が正確であるよう尽力しています。しかし、IBTAはe-News内の情報の不正確さや不備について一切の責任を負いません。また、その情報やリンク先のWebサイト情報など、第三者の情報の不正確さに起因する損失や損害についても一切の責任を負いません。このe-Newsに掲載される情報は教育のみを目的としたものであり、医療の代替となるものではなく、IBTAウェブサイト上の情報は、医療上のアドバイスや専門的サービスを提供することを意図したものではありません。医療や診察については、主治医にご相談ください。臨床試験のニュースを掲載することは、IBTAの特定の推奨を意味するものではありません。IBTA e-Newsからリンクされている他のウェブサイトは、IBTAは管理していません。したがって、その内容については一切責任を負いません。IBTAは読者の便宜のためにニュース内でリンクを提供しているものであり、リンク先のウェブサイトの情報、品質、安全性、妥当性を検証することはできません。IBTAのプロジェクトに企業が協賛することは、IBTAが特定の治療法、治療レジメン、行動の推奨を意味するものではありません。（スポンサーの詳細については、スポンサーシップ・ポリシーをご覧ください）。e-Newsに掲載されている資料の見解や意見は、必ずしも国際脳腫瘍ネットワークのものではない場合があります。

翻訳： 伊藤 彰/JAMT（ジャムティ）翻訳チーム

監修： 夏目 敦至/名古屋大学未来社会創造機構・特任教授
河村病院・脳神経外科・部長